

ひがし

広報

しらかわ

No. 239

'55 10 / 20

人口の動き

— 9月末住民登録人口から

世帯数	944	世帯
人口	3,770	人
転入	8	人
転出	7	人
出生	5	人
死亡	3	人

先月と比較して 3人増
昨年の同月と比較して 61人減

■ 発行 岐阜県加茂郡東白川村

■ 編集 / 総務課 ■ 印刷 / 関市中部印刷



神土まつりの
しし舞が復活

神土まつりのしし舞が20年ぶりに復活しました。これは、神土青年団（村雲陽司団長・団員数18）が、6月ころから練習を重ねていたもの。

当日は、長とろから平下までの約2キロを練り歩き、沿道の人たちを楽しませこの祭りに花を添えました。

＝写真＝は、平地内を練り歩く神土青年団員によるしし舞。
—9月28日、役場前

おもな内容

- 村ぐるみでめざす
“新しい村”……P2～
- 住みよい可茂地域づくり
アンケートの結果……P4～
- 図書室の利用状況……P7
- 写真でつづる郷土歌舞伎
……P8～
- 東白川小初めの運動会……P9
- 田口良三さん歌集を出版
……P10
- 村職員の人事異動……P11
- 村誌編さん室だより……P12
- ふるさとへの便り……P13
- けいじ板はP6～7の下欄

村ぐるみでめざす新しい村 地区のまとまりで実現へ



村が昨年から進めてきた「村ぐるみ農業推進事業」は、各地区の将来構想を考えた話し合いが積極的に行われ、大きな成果をあげてきた。その話し合いの中から、どの地区でも水田の基盤整備を中心とした、ほ場整備事業の実施が今後の新しい村づくりの基盤になる——。との意向がまとまってきました。村でもこの意向を受けて、本年度当初に役場の機構の改革を行うとともに、事業実施のための制度事業や融資事業の検討など準備を進めてきました。このほど、その内容がまとまり、十月に入ってから各地区での説明会を実施し積極的な推進をはかっています。それとともに、昨年一年間実施した「村ぐるみ農業推進事業」を本年度から「村づくり推進会議」とし、地区、また、村での推進組織の再編成を行いました。この事業は、かつてない大事業であり新しい村をめざすものです。この実現のためには、あくまでも地域内での話し合いが基になるだけに、今後、地区内の推進活動が非常に重要になってきます。

今回は、ほ場整備を中心とする新しい村づくりをとり上げてみました。

土地条件の改善で

農業生産の向上を

現在、本村のような農村・

農業の置かれてある立場は、

かつてない厳しい状況下にあ

ります。が、農業を基幹産業

としている本村は、この厳し

さを乗り越えて発展をはから

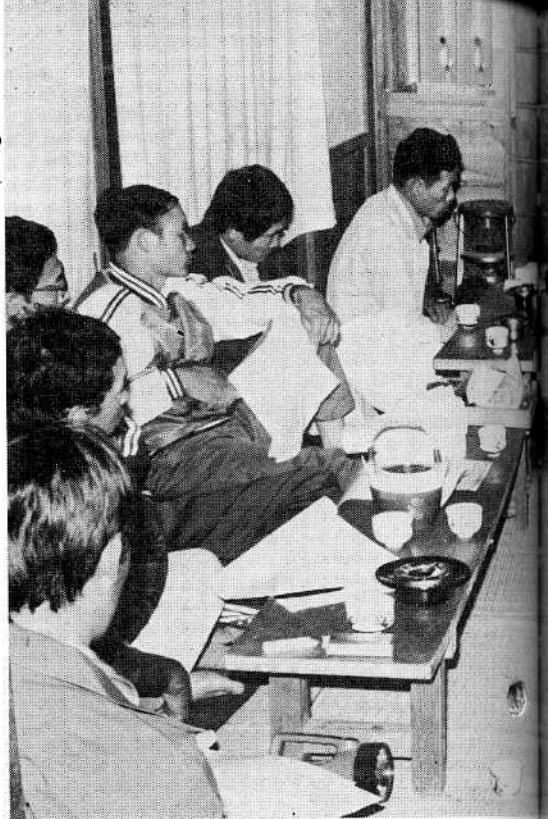
なければなりません。

農業生産の要素の中でいち

ばん大きな比重を占めるのは

土地ですが、これまで村が振

興してきた事業は、この土地



十月に入って各地区ではじめられた説明会のもよう
— 中通集会所で

の改善には手をつけず、製茶工場などの近代化施設や農道の整備など、おもに施設の整備拡充と生産組織の育成強化を重点に行ってきました。

これらの振興はそれなりの効果をもたらしましたが、農業生産が土地を基盤としてい

て育ってきた日本の農業が大転換を余儀なくされ、本村でも水田再編対策による減反で他作物への有効利用と所得の

確保など、労働がしやすく高度利用のできる農地の必要性が高まってきました。

生活環境の向上も ほ場整備の利点

ここではほ場整備事業を簡単に説明してみましよう。

この事業は、農地の区画整理を主体に道路や水路などを一体的に整備する事業です。一般的には水田の区画だけと考えられがちですが、農地のほかその周辺も改善するわけ

ですから、単に農業の生産性向上だけでなく生活環境など多くの利点があげられます。また、農業の兼業化が進んでいる現在、ほ場を整備することにより兼業農家の経営の省力化をはかるとともに、農地の流動化や委託経営などを促進することで、中核農家の育成をはかることを目的としています。

国の補助事業 で負担を軽減

この事業は多くのメリットをもっています。その実施には多額の費用がかかりますが、国や県の補助があれば、しかも七〇%以上の高率補助でなければ村や農家の負担が大きくなり、無理ということになります。

このため村では、国の制度を積極的にとり入れてその補助率を高くし、村や地元

の負担を軽くするよう県と話しを進めています。いずれにしても百%の補助はありませんから、ある程度農家のみなさんに負担がかかります。現段階でいえることは、それぞれの制度によって

国や県の補助率が違います。が、全村平均して負担ができるだけ公平になるよう調整する予定ということです。

56年度は一地区 モデル的に実施

あくまでもみなさんの同意があつてこの事業が進められるわけですが、今後の進め方として村では次のような計画をもっています。

まず、十月からはじめられた各地区での説明会のあと、それぞれの地区から寄せられた意見や要望を基に村全体の計画書をつくりま

す。計画書は、ほ場整備だけでなく生産の施設や生活環境をよくするための施設などを含めてすべての事業をまとめたもので、来年一月ころまでに作成の見込みです。次に、その中から一地区を選んで昭和五十六年度にモデル的に実施。昭和五十七年度以降は、そのモデル地区での結果を土台として本格的な事業実施に入りたい考えです。実際、予算などの関係もあつて短期間に全村的に事業を

行うことは不可能です。ですから、村全体を三つに分け、それぞれ該当する国の制度をとり入れて行い予定

です。計画では、神土と越原(日向を除く)地区が昭和五十七年度から実施に入り、昭和五十六年度までの十年間に整備、五加地区は昭和五十七年度から昭和六十一年度までの五年間で、日向地区は昭和五十六年度から三年間にわたって整備したい。としていきます。

長期的視野で 地域の将来を

いずれにしても、これは計画です。各地区での話し合いの中でまとまりがつかないかぎり、事業の実施に踏み切ることにはできません。個人的な損得勘定や目先の利害だけにとらわれては、新しい村づくりは案だけにどまってしまう

です。自分たちの住んでいる地区、地域全体の将来——農業や生活環境をよくしようというのを基本に、長期的視野に立ってみんな考えてみたいものです。



可茂地域・新広域市町村圏計画の基礎資料とするために行ったアンケート調査の結果がまとまりました。この調査の対象者は可茂地域全域の満二十歳以上の男女五千人。選挙人名簿から無作為抽出しました。そのほか、圏内の公・私立高校の三年生五百五十人にもご協力いただきましたが、本村の対象者はわずかだったため省略しました。一般の回答者は全体で二千六百二十七人、回答率は五二・四％でした。本村の対象者は二百人、百八人（回答率は五四・〇％）の方から回答をいただきました。では、調査項目の中からいくつか紹介します。（圏域全体と本村とを比較しましたが、同じような傾向のものは本村または全体についてだけ掲載しました。）

本村の職業 「自営」がトップ

圏域全体では「個人企業を含む会社員」と答えた人が三〇・五％で第一位を占め、次いで「自営業」二四・九％、「主婦」二二・九％の順でした。本村では「自営業」が五三・八％でトップ、以下「主婦」二七・四％、「会社員」九・四％と続いています。

本村の回答者のうち「自営業」と答えた人は、ほかの市や町と比較してその占める割合が最も高く、また、反対に「会社員」は最も低く、本村内に会社などの働く場のない

あなたの職業は

全体	会社員 30.5%	自営業 24.9%	主婦 22.9%	公務員・その他 21.7%
本村	9.4%	53.8%	27.4%	9.4%

今住んでいるところをどのように思いますか

全体	一生住みたい 42.9%	今は満足 32.0%	その他 25.1%
本村	54.6%	30.6%	14.8%

今住んでいるところ 八五％が満足

現状が浮き彫りになっていくといえます。

「現在住んでいるところをどのように思いますか」の問いでは、全体でも本村だけを見ても「一生住みたい」「今

は満足しているので移る気はない」など、満足しているという答えが圧倒的です。ちなみに本村の場合は、八五・二％の人が満足しておられるという結果でした。

全体を年齢別にみてみると「満足している」という人は年齢が高くなるにつれて高い値を示し、六十歳以上では三十歳未満の人の答えの三倍を超える値を示していました。

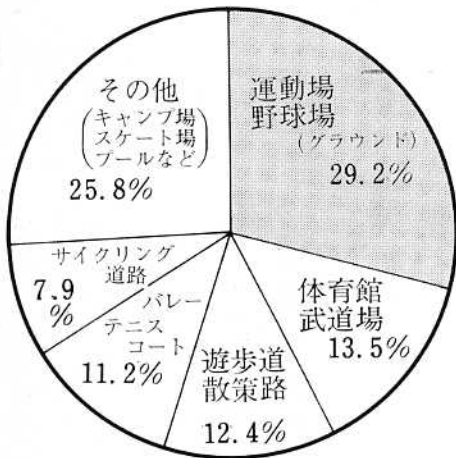
望む未来は農業の村

住みよい^{可茂地域}づくりアンケートの結果から



ほしい施設は

※グラフは本村の場合。



のため、必要な施設は”で、
”スポーツ活動などの充実

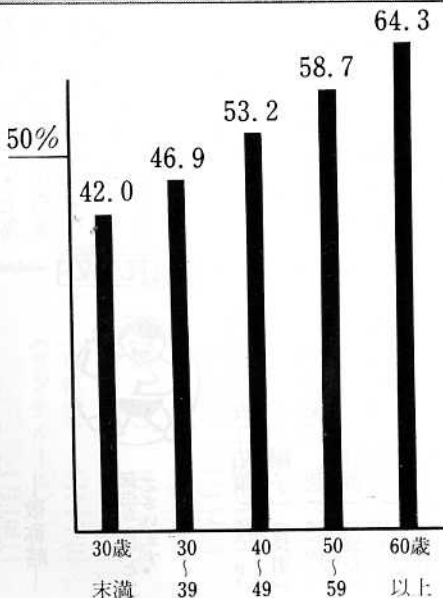
ほしい施設は
グラウンド

老後のくらし
健康が第一

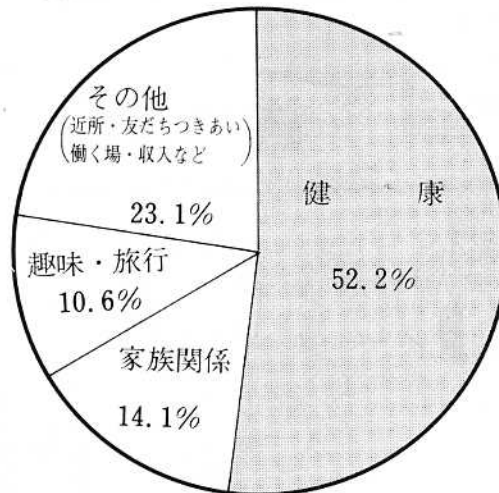
”老後のくらしの中でい
ばん充実させるべきことは”
の問いでは、全体で「健康」と
答えた人が五二・二%あり健
康に対する関心の高さがめだ

各市町村とも「グラウンド」
「体育館」「バレー・テニス
コート」などが上位を占めて
います。本村の場合は第三位
に「遊歩道」第四位に「バレ
ー・テニスコート」と続いで
います。

年齢別の中で健康、が占める割合



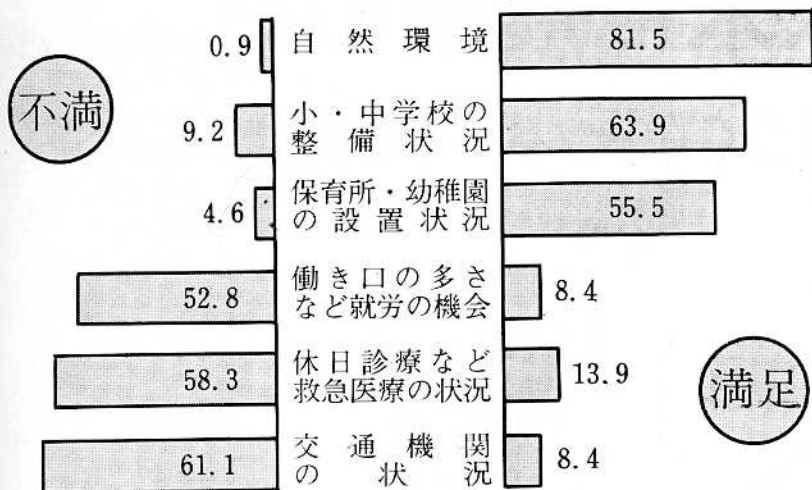
老後のくらしの中で、なにを充実させ
て行くべきだと思いますか



っています。
とくに、年齢が高くなるに
つれてその傾向が強くなり、六十

歳以上の人は六四%余りもあ
りました。

おもな項目の満足度・不満度 (数字は%)



日ごろのくらし
自然環境に満足

日ごろのくらしについては三十二項目にわたり「満足」

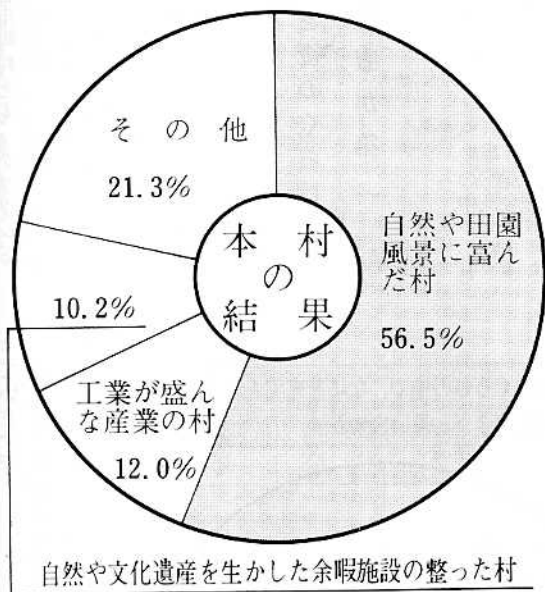
「自然や田園風景に富んだまち(農業都市)」が三二・七%でトップ。次いで「生活環境が整備された住宅中心のまち(住宅都市)」一七%「文化施設や教育機関が整備されたまち(文教都市)」一六・八%などとなっています。

56・5%が農業
発展を望む

「将来どんなふう」に発展してほしいか「自分たちの今住んでいるところの未来のすがたを質問した結果は、全体で

「自然や田園風景に富んだまち(農業都市)」が三二・七%でトップ。次いで「生活環境が整備された住宅中心のまち(住宅都市)」一七%「文化施設や教育機関が整備されたまち(文教都市)」一六・八%などとなっています。

将来どんな村に発展してほしいですか



けいせいぼん

戸籍の窓(九月)

敬称略



誕生おめでとう
ございます。

(大明神) 安江祐策 (裕久)

(柏木) 古田 徳 (真由子)

(陰地) 安江 敬吾 (弘隆)

(平) 中嶋 正樹 (亜紀)

(大沢) 今井 章治 (由登)



いつまでも
おしあわせに

今井 克次 (平)
安江 知子 (平)



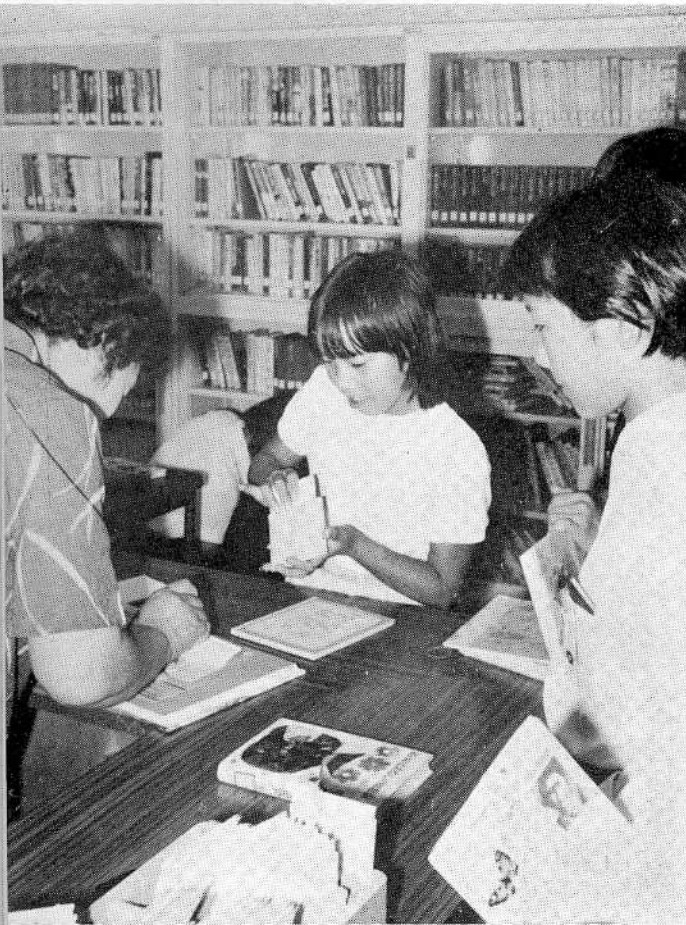
おくやみ
申しあげます

樋口志ずゑ (中谷)

村雲 盛一 (中通)

林 京松 (大明神)

利用度高い村の図書室 もうすぐ開室一周年



週1回の貸出日は小・中学生をはじめ大勢の人でにぎわっています。 一村民センター4階図書室で

昨年の十一月にオープンした公民館図書室(村民センター4階)も、もうすぐ一周年になります。当初は約千冊の本でスタートしましたが、その後購入したのやみなさんから寄付していただいた本など合わせて、二千五百冊(九月末日現在)に達しようとしています。

利用者は四百人に
女子が三分の二

九月末現在までの利用者は四百人。延べにして二千九百九十三人、週一回ごとの平均にしますと六十六人余りでな

かなか高い利用度を示しています。

この間貸し出された本は、延べ五千五百五十冊、一回平均百二十一・一冊となっています。

利用者を男女別でみると、男子百三十人、女子二百七十人で、女子が全体の三分の二

を占めています。

また、大人と児童生徒の割りでみますと、大人百九十二人(四八%)、児童生徒二百八人(五二%)で、ほぼ同じくらいの結果がでています。

家族ぐるみの読書

一家だんらんの話題に

最近では、家庭内での読書が多くなり、親子で、夫婦でさらにはこどもからお年寄りまで幅広い年齢層で、家族そろって読書を楽しむ家庭が増えているようです。

そして、本の内容が一家だんらんの場の話題となり、その楽しいふんい気がこどもたちの読書欲へとつながっているようです。

新刊を備えます

貸し出しは11月から

「読書の秋」を迎え、公民館図書室では新たに五十冊余りを購入し、より親しまれる図書室に——と準備を進めています。この新刊は十一月に入ってから貸し出しされる予定です。みなさんお気軽にご利用ください。

■善意の寄付紹介—敬称略

(交通安全対策費へ)
現金十万円

——大明神 安江英樹
(社会福祉費へ)

現金五万円—平安江謙次郎
(東白川小学校へ)

竹ぼうき五十本
——老人クラブ寿会

スマック運動具二十組
——岡山県玉野市 安江義蔵

サルビア・マリーゴールド
多数——柏木園芸クラブ
(東白川中学校へ)

図書三百冊——東中PTA

■有線電話番号の

お知らせ

○東白川村射撃場 二七九四

○森林組合林産物共販所 三一六四

(管理棟) 三一六〇

○東白川小学校 一二五二

(校長室) 一二六一

(職員室) 一二七一

(廊下) 三二五五

(車庫) 三二五四

(宿直室) 一二七三

(ランチャールーム) 一二五二



期待にこたえことしも公演

写真をつづる郷土歌舞伎



藝（がま）も登場、会場をわかれました。

—藝妖術滝夜叉物語—大詰・岩屋の場から

東白川村歌舞伎愛好会主催の郷土歌舞伎公演が、九月二十八日、東白川中体育館で行われました。この公演は、昭和五十二年に二十六年ぶりに復活公演されて以来四回目。村内の愛好者をはじめ、村外の多くの愛好者のみなさんから「せひことしも」という声が寄せられ、その期待にこたえてこの春から準備が進められてきたものです。これまでと同様出演者は、小学生からお年寄りまで多彩な顔ぶれて、集まった観衆を魅了しました。

本号では、郷土歌舞伎の華やかな舞台と、その楽屋を写真で紹介します。



開演10分前の楽屋では衣裳着せやかつら付けて大忙し



顔づくりから役者へと変身して行く

もうそろそろ…。花道のそでで出番を待つ出演者たち

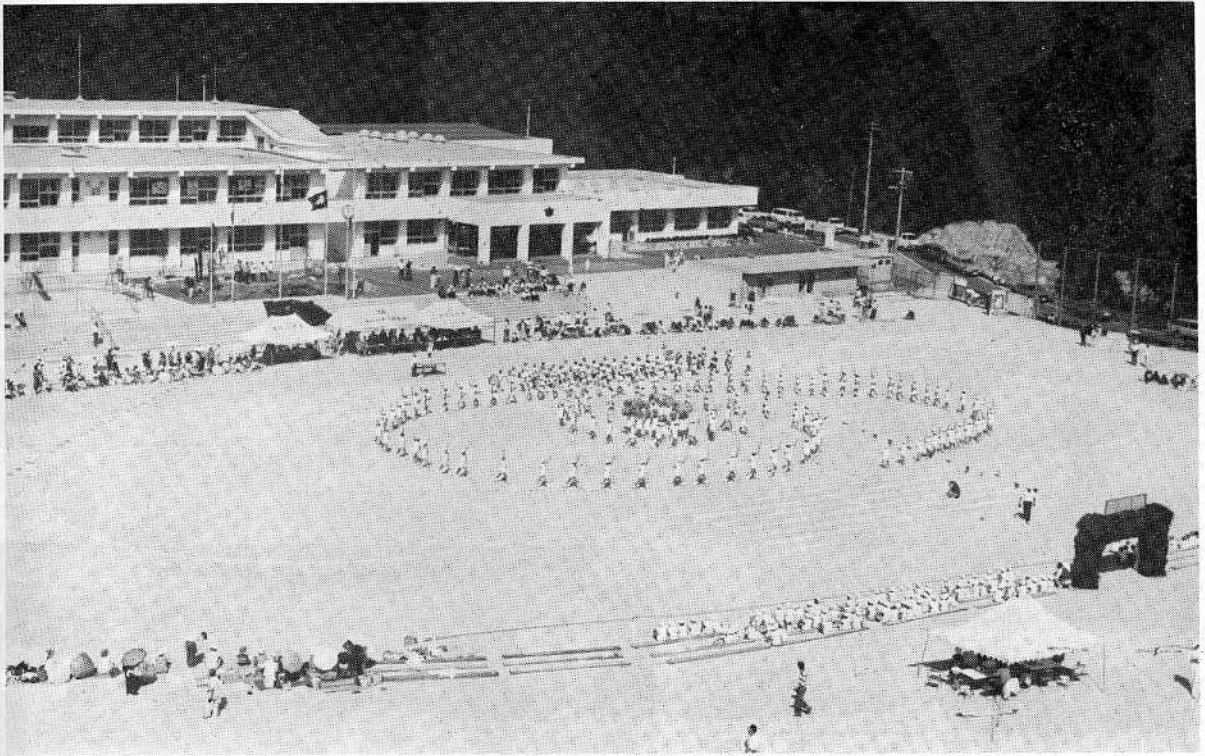


舞台を見つめる目、目、目。当日体育館に集まった観衆は約八百五十人。



広い校庭で元気いっぱい鼓笛パレードすることもたち

一東白川小学校で



東白川小で初の運動会

一般参加は約 600人

秋の一日を楽しむ

この四月開校した東白川小学校で十月五日、第一回の運動会が行われました。

当日は、秋晴れの好天に恵まれ、こどもたち三百三十人余りはお父さんやお母さんたちの前で、この日に備えて練習した成果を力いっぱいひろうし、盛んな拍手をあびていました。

午前八時三十分、こどもたち全員による入場行進でスタートした運動会は、開会に引き続き校庭正面に設けられた掲揚塔で、国旗・村旗・そして新しい校旗の掲揚が行われました。

開会式のあと、参加者全員による準備体操を皮切りに、午前中二十種目、午後十五種目を行いました。

種目の大半はこどもたちによるものでしたが、中にはPTAによる「つなひき」や、来賓のみなさんによる「ゲートボールリレー」なども盛り込まれ、力いっぱいのプレーで秋の一日を楽しみました。

最初は白組がリード、そして抜きつ抜かれつの接戦がくり広げられ、勝敗は最後までわかりませんでした。最後の得点種目「赤白選手リレー」で赤組が勝ち、赤組五百四十七点、白組五百二十九点で赤組が逆転、初優勝しました。

会場となった東白川小学校校庭には、初の運動会をひと目見ようと、父兄やこども連れなど約六百人の一般参加がありました。旧小学校の校庭より一まわりも二まわりも広い校庭には、わずかのひとしか目に写りませんでした。

しかし、三校統合から半年たった現在、こどもたちの心はすっかり打ち解け、よい意味でのライバル意識も芽生えてきており、各種目で力いっぱいプレーするひとみは心なしか輝いているようでした。

田口良三さん

農村の生活・自然を詠んだ歌集

『冬虹集』を自費出版

昭和五十年から広報に掲載している「私の作品」の選者として、また、村誌編さん委員としてみなさんご存じの田口良三さん（五九）が、このほど歌集『冬虹集』を自費出版

されました。田口さんは、十七、八歳のころから歌を詠み始められ、村内の歌仲間とともにガリ版誌を作るなど活動をしておられました。



村民センターで行われた記念夕食会で花束を受ける田口良三さん。円内は出版された『冬虹集』

その後、一時俳句に転向し『清明集』と題した手作りの筆書も残されました。

田口さんが本格的に短歌ととり組まれたのは還暦を過ぎてからで、昭和四十三年にはコスモス短歌会へ入会。以来今日までひたすら歌を詠み続けられ、この間、昭和五十一年には第二十三回〇先生賞に選ばれています。

今回出版された『冬虹集』には、このコスモス短歌会で採選された作品をはじめ未発表のものも含め、六百九十五首と長歌一首が収められています。

田口さんの作品は、農業を通じての生活や自然を詠んだ歌が多く、親しみのあるものばかりでなかなか好評です。

この出版を記念して、九月二十一日午後六時から村民センターで夕食会が開かれました。この催しの発起人は、村長・農協組合長・教育長で、当日参加したのは、学校長やPTA代表者、村誌編さん委員ら約四十人。記念品と花束を贈り、田口さんの偉業をたたえらるとともに、その労をねぎらいました。

「百聞は一見にしかず」といわれるように、あらゆる知識や情報はおもに目から入ってきます。また、目つきが悪い、視力が悪いなどは容ぼうにも重大な影響を与えます。目は、体のうちでほんの小さな器官ですが、非常に大切なものです。

目の健康は体の健康

その大切

暮らしと健康



目を大切に

近視は防げるか

心の健康に気を配ることが健康な目を維持させるいちばんの秘けつだといえそうです。つまり、心身ともに健康に心がけることが大切なのです。

最近では、メガネを使用する学生が増えているといわれます。そのほとんどは近視です。

この原因にはいくつ

かの理由があげられますが、最も大きな原因は「目を近づけて本を読むなど目を酷使することが多い」ということです。

近視を予防するため姿勢を正し、四十センチくらい離して本を読む▽寝ころがって本やテレビをみない▽ときどきは、遠くをみるなど目を休ませる。など、気をつけましょう。

目は心の窓

目は心の状態を正直にうつし出します。

体を健康に保つと同時に

“新しい村”へ新体制で

9月13日付で村職員の人事異動

村では、九月十三日付で職員の人事異動を行いました。

今回の人事異動は、ことしから準備が進められているほ場整備を主体とした“新しい村づくり”に備えて行われたもの。また、人事の刷新のため行ったもので、課長級の異動はかつてない大幅なものと

なりました。

今後はこの新体制のもと、

新しい村づくりをめざして行きます。みなさんのこれまで以上のご理解とご協力をお願いいたします。

九月十三日付で異動した職員は次のとおりです。()内は前職。

内は前職。

〔課長級〕

▽総務課長(民生課長) 桂川 直衛

▽民生課長(土木建設課長) 田口 茂

▽土木建設課長(有線放送協会事務局長) 今井 哲

▽有線放送協会事務局長(総務課長) 安江 輝夫

〔一般職員〕

▽産業振興課振興第二係 安江 宏(教育委員会)

▽教育委員会(総務課税務係) 村雲陽司(総務課税務係)

安江 裕尚

郵政大臣 からお祝い

村内の米寿者9人へ

郵政省では、毎年「敬老の日」にちなんで、めでたく米寿を迎えられるお年寄りに、郵政大臣からお祝い状と記念品を贈り、その長寿を祝っています。

本村でも、東白川郵便局長がことし米寿を迎えられたお年寄り宅を訪問し、大臣からのお祝い状と記念品を伝達し長寿を祝いました。

ことしめでたく米寿を迎えられた村内のお年寄りは次のとおり。〈敬称略 ()内は生年月日〉

島倉	みの	一西	洞	(明治25年10月13日)
早瀬	はるの	一中	通	(明治25年1月10日)
故安江	くわの	一加	舎尾	(明治25年4月6日)
安江	空市	一中	谷	(明治25年1月2日)
安江	むら	一平		(明治25年2月23日)
内木	ますの	一黒	淵	(明治25年6月18日)
桂川	さい	一黒	淵	(明治25年8月31日)
田口	照之介	一日	向	(明治25年10月27日)
今井	浅治	一宮	代	(明治25年9月11日)

暮らしのカレンダー

＊村民の誓い制定記念大会

- ・とき 11月3日 正午から
- ・ところ 東白川中体育館
- 村民の誓い・村の花の発表をはじめ・村づくりに貢献された人たちの表彰を行います。

そのあと、第11回文化講演会(記念講演)が行われます。ことしの講師には、東京オリンピックのバレーボール金メダリスト中村昌枝さん(旧姓河西)をお招きし「バレーボールにかけた私の青春」と題した講演をしていただく予定です。

＊小・中学校美術展

- ・とき 11月1～5日
- ・ところ 村民センター 3～4階の各部屋

＊加茂郡消防連合演習

- ・とき 11月16日
- ・ところ 総合運動場
- 全団員ご出動ください。

＊第11回村民親ほく卓球大会

- ・とき 11月23日 午前8時30分から
- ・ところ 東白川中体育館
- 多数ご参加ください。

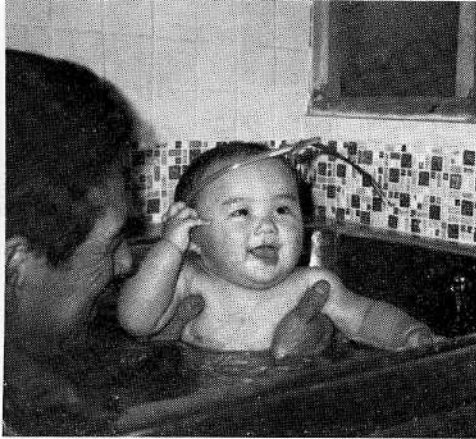
＊第1回産業祭

- ・とき 11月23日
- ・ところ 村民センターと役場前広場

—この祭りは、これまで農協主催で行っていたものを、村・農協・森林組合・商工会・各団体などの共催で行うもので、農産物の品評会や写真展など盛りだくさんの行事が予定されています。

なお、同日村民センター4階では村の芸能発表会も予定されています。

芸能発表会は正午からで、村文化協会所属の7サークルが日ごろの成果をひろわします。



今井友樹(ともき)くん 11か月
 柏本 今井大作・美津子さん長男

—おじいちゃんといっしょのお風呂で
 ごきげん ごきげん。



今井雄平(ゆうへい)くん 2歳6か月
 大沢 今井政信・恵美子さん長男

—服をよごしてママにしかられるか
 な。でもボクどろんこ遊び大好き。

伝説と民話



—村誌編さん室だより

五介の滝(その二)

あるとき又右衛門が五加柏本を訪れ、白川の瀬に躍るアユを射とうとして数回試みたが一発も当たらず、工夫をこらしているところへ、どこからともなく通りかかった山伏の僧が「おまえの砲術はなかなか精妙であるが、まだまだ足らぬ点が多い、アユを射つにはこうするのだ」といつて、又右衛門の手から鉄砲を取り、瞬間にして数発を放せば、弾は一発のくるいもなく命中し、射れたアユが白い腹を見せて川下へ浮きつ沈みつ

すくすく育て

未来の主役

流れていった。

山伏は、ぼう然と見ていた又右衛門に鉄砲を返しながら「わしはこの秘術をだれかに伝えようと思って、長い間諸国を巡っていたがいまだにその人を得なかった。今おまえの技量を見るに、わが意を得た。これによって極意を知れ」と、懐中から一巻をとり出して授け、どこへともなく立ち去っていった。

腕前は、空中へ投げ上げたビタ銭の穴を射ち抜き、あるいは道行く人の下駄の歯を射ち抜いたり、髪元結いを射ち切ったりして人びとの心胆を寒からしめることもしばしばあったという。

やがて、この名声が藩主の耳に入り、ついに又右衛門に五介討伐の命令が下った。彼はその命令によって直ちに五介のかくれ家の探索に向かったが、神出鬼没の五介の足どりはなかなかつかめなかった。

(つづく)

▼今月の料理▲

サンマのかば焼
 きどんぶり

材料(二人分)

サンマ：四尾・しょうゆ：

大さじ一・酒：大さじ一・

サラダ油：大さじ一〜二・

砂糖：大さじ一

味 しょうゆ：大さじ

調 一・五

酒：大さじ一

粉：大さじ二・ご飯：七百

粉：大さじ二・ご飯：七百

作り方

①サンマは頭を落として背開きにし、骨とはらわたを除き、洗って二つくらいに切り、しょうゆ・酒をふりかける。

②調味料をつくる。

③サンマに小麦粉をまぶし熱した油で身・皮の順にこんがり焼上げ、②を加え、動かしながらかいてサンマの両面に汁をまぶしつける。

④温かいご飯の上のせて残り汁をかけ、粉さんしょうをふりかける。

ふるさとへの便り



帰省して感じる

空気のおいしさ

東白川の皆様、お元気で過ごしてでしょうか。

私が初めてこの欄におたよりしたのは高一のときでしたが、二回目の今回はもう大学二年生。ほんとうに月日の速さを感じます。

国文科で学び始めて約一年半過ぎましたが、大学の講義は甘いものではありません。

とくに私たちは少人数での発表形式の講義が多く、自分の発表のときはその準備がたいへんです。

夏休みの宿題も、レポートばかりで困ってしまいます。

そして、九月末には前期の試験。このあとの休みを楽しみにしてがんばろうと思います。

※このお便りは九月八日いただいたものです。

名古屋からたまに東白川へ帰ってくると、空気のおいしさをすごく感じます。これからも、今のままの自然の美しい東白川であることを願っています。

それでは、このへんでペン置きませす。

愛知県立大学文学部
国文学科 二回生
田口 弥生
(大明神 田口勉夫さん二女)

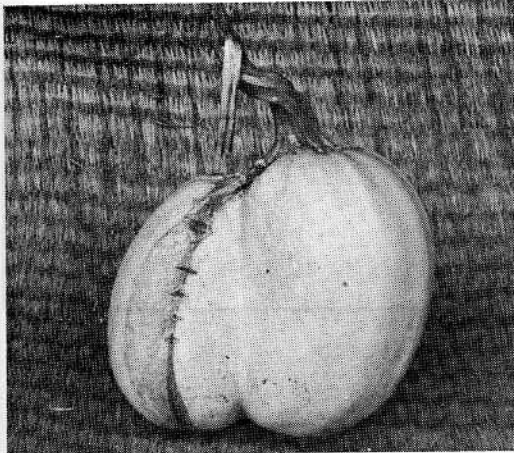
愛知県立大学文学部

国文学科 二回生

田口 弥生

(大明神 田口勉夫さん二女)

※このお便りは九月八日いただいたものです。



子持ちの そうめんカボチャ?

去る9月、柏本の栗本伴次郎さん宅で、昔なつかしい「そうめんカボチャ」がとれました。それも子持ちというおまけつき……。

実はこれ、中国産でペポカボチャが本名。煮るとそうめんのように細くなるところからこの名がついたようで、今ではほとんど見られなくなりました。

＝写真＝は、めずらしいそうめんカボチャの子持ち?

(写真と文は広報モニターの栗本重秋さん)



糸の 作品

あなたの作品をお寄せください

・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。

・毎月末までに神戸田口良三宛に出してください

○廃校舎にブルの一撃無惨なり瓦落つ首胸底にひびく

荒れし田に王者の如く芒立ち穂群崩れて世継ぎを散らす

洗へども老の手に染む腐り蚕の臭ひなかなか消えぬ終日

○舗装せぬ農道行けば美しく路一ぱいに小草花咲く

○練り歩く子供神興の先に立ち舞ふ獅子頭は秋日に光る

○屈まりて居し後より影一つ左右に飛び交ふ花に来し蝶

○大いなる壁のごとき林にて夕日さし入る中のしづけさ

○日日駆くる空しき己が営みに切れし靴紐憩ひて結ぶ

○墓参のたび過ぎし月日を数へては亡母に語りぬ子らのことなど

○野の草も眼をとめ見れば愛しけれ左り巻きなる捻し花もある

○六十七八と思ひて居たしいつまでも七十越えし母の歳なり

わが小歌集出版につき村内有志各位より祝福の催しを頂き

感謝に堪えず 二首

友ありて成りし歌集を村人ら祝ぎて賜ひけり勿体なきかなや

生涯の歎びとせむ吾が歌集祝ぎて賜ひし菊の花束

加藤 公一
加藤 公一
早瀬 勇造
早瀬 勇造
伊藤 重雄
伊藤 重雄
田口 圭二
田口 圭二
村雲 伝三
村雲 伝三
安江 守平
安江 守平
古田 光男
古田 光男
今井 惣十
今井 惣十
今井 米子
今井 米子